

## 竹の子会の基本目標

1. 人間形成への修練
1. 地域社会への奉仕
1. 会員相互の親睦



## 竹の子会会報

No.615

竹の子会総務委員会

令和4年1月13日

## 新年ご挨拶



会長

名和 良能

明けましておめでとうございます。新年にあたり、ご挨拶申し上げます。

旧年中は会員の皆様ならびに特別会員の皆様には、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

第66期も昨年7月より「問い続ける～現在を見つめ 志す未来へ～」を掲げスタートいたしました。早くも半年が経ち振り返しに入っていました。ここまで無事に各事業を終えることができましたのは、ひとえに皆様のご尽力の賜物であると深く感謝申し上げます。

さて、今期の事業を振り返りますと、例年通り『会員オリエンテーション』より始まり新入会員3名を迎え会員38名でスタートすることができました。7月の『総会懇親会』では多数のご来賓、特別会員の皆様にご臨席を賜りとても緊張しましたが大変貴重な経験をさせていただきました。しかし、その後新型コロナウイルス感染症の再拡大により緊急事態宣言の発令により『8月度例会、交通遺児夏のつどい』『9月度例会、講師例会』『10月度例会 十万石ふるさとまつり』を中止の判断とさせていただきましたが、各委員会の皆様には大変申し訳ない気持ちで一杯です。しかし、ここまでの過程に費やした時間は

無駄ではなく成長の機会に繋がったと確信しております。

新型コロナウイルスが落ち着き『11月度例会 家族親睦会』では日頃の感謝を込め揖斐川町の月夜谷ふれあいの里でバーベキューや魚釣り、アトラクションを楽しみました。参加していただいた家族の皆様の笑顔が見られ嬉しく思いました。この会で、家族の支えがあるからこそ今の会が成り立っていることを再認識することができました。『12月度例会 交通遺児クリスマス会』では夏のつどいが中止となり今期は例年とは違う内容でユニバーサル・スタジオ・ジャパンへ行き、家族の皆様には冬の思い出を作っていただきました。参加された家族の皆様には大変好評でした。今後の事業の在り方について参考になる意見をいただきました。これまで前半期において、大きなトラブルもなく事業を努めていただきました各委員の皆様には改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

第66期後半にも様々な事業が控えております。会員、特別会員の皆様方に引き続きお力添えをお願いし、残りの事業も無事成功に収め、67期へ良い形でバトンを渡せるよう、私自身気持ちを引き締めて行く所存でございます。今後ともより一層のご理解とご協力をお願い申し上げ、本年が皆様にとって素晴らしい年になる事をご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。





# 11月度例会 家族親睦会

令和3年11月21日(日) 月夜谷ふれあいの里



親睦委員会  
副委員長  
田中 慎也

皆様、こんにちは。第65期入会、親睦委員会副委員長の田中慎也です。

令和3年11月21日に11月度例会家族親睦会が行われました。古澤親睦委員長は、先日、第一子の娘さんが誕生し、家庭と委員会活動で委員長自身も大変な時期にも関わらず、委員会メンバーの為に、一生懸命、委員会活動をしてきていました。また、自分の家族が大変な状況にも関わらず、快く送り出してくれるご家族。竹の子会は、ご家族の理解と支えがあってこそ青年団体です。当日に親睦を深めるとともに、日頃の感謝を込めてご家族におもてなしをしようと、並々ならぬ熱意を持って当日に臨みました。

事業当日は、月夜谷ふれあいの里にてBBQを行いました。少し肌寒い日でしたが、カイロを用意したり、授乳室や休憩部屋を用意したりなど、細かい配慮も徹底しており、僕は事業計画の時点で、そのような配慮に全く気付くことが出来なかったのも、すごい勉強になりました。

BBQのほかにアトラクションを3つ用意しました。一つ目は魚釣り体験です。時期的に魚の活性が、少し低かったのですが、釣った魚を食べる事ができ

るシステムだったので、みなさん必死になっていました。魚の食いが悪い中でもダントツに目立っていたのは金山さんでした。みんな、なかなか釣れない中、一人だけ異常に釣り上げ、待ちきれず前日にも練習に来てたんじゃないかと思うほどでした。みなさん集中して釣りをしている姿を見て、とても安心しました。二つ目は時計手作り体験です。お子様もたくさん見えたので、みんな、「ああでもない」「こうでもない」とオリジナル時計を楽しそうに作っていました。三つ目は豪華賞品をかけた水中硬貨落としゲームです。みんな少し疲れてはいましたが、目の色が変わりました。子供から大人までやらせなしの真剣勝負。今西直前会長ファミリーがとても上手で、さすがだなと思いました。

単純にBBQをするだけではなく、たくさんの笑顔に包まれたこの家族親睦会の事業は、家族のありかた、会員同士の結束、事業に対しての気持ち、いろいろな事が発見でき実感することができました。これからの竹の子会をもっともっと盛り上げていきたいです。







# 12月度例会 交通遺児クリスマス会

令和3年12月5日(日) ユニバーサル・スタジオ・ジャパン



奉仕委員会  
副委員長  
伊田 直樹

皆さま、こんにちは。奉仕委員会の伊田直樹です。去る12月5日に12月度例会交通遺児クリスマス会で大阪のユニバーサル・スタジオ・ジャパンに行ってきました。従来ですと、大垣フォーラムホテルでクリスマス会を開催されるようですが、令和3年8月時点では我々人類を未曾有の危機と恐怖に陥れた「新型コロナウイルス」の影響が収まっていなかったため、やむを得ず冬の事業として「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」に行った次第です。

私は新入会員1年目として奉仕委員会に入れさせていただきましたが、奉仕委員会のことは「助金を使って交通遺児の子達に楽しんでもらう事をする」ということしか想像できていませんでした。ただ計画をして遺児やその家族を招待し、旅行に連れて行くのだろうと。

いいや、大垣竹の子会がそんな在り来りな事業をするはずがありませんでした。私は仕事を理由に欠席することもありましたが、中尾委員長を始め奉仕委員会のメンバーは積極的に開かれる委員会へ参加をし、意見を交換、

抜けの無いように準備を徹底して行っていました。新入会員が恒例として考える「行きのバス内でのアトラクション」では同じく新入会員である岩田君がクイズ番組顔負けのオリジナルクイズを作り、岩田印刷としてハイクオリティな印刷物を作り、当日の司会進行も完璧にこなしていました。少しアトラクションの仕組みが複雑ではないかと心配もしていましたが、始めてみると岩田君の華麗な司会や先輩方の盛り上げによって、バス内は歓喜に溢れていました。バスの中やユニバーサル・スタジオ・ジャパン内でも、会員は遺児や家族の方々に声をかけ「少





しでも楽しんでもらえるように」という想いが伝わってきました。その想いが伝わっていたのか、遺児や家族の顔にはマスクから満面の笑みが溢れていました。帰りのバスではクイズの結果発表やプレゼント贈呈をしたり、残ったクイズを出して青年の家に着くまで会員共に楽しんでいました。竹の子会の会員は盛り上げ上手がとても多いと思っていますが、新たな酒飲みの合図が誕生してしまったのは良い思い出となるでしょう。

特に大きな問題も起こらなかった今回の事業ですが、少しでも起こる可能性のあるリスクをカバーし

ようと反省会を行えたので、次回開催の事業ではさらに皆さんに楽しんでもいただけるようにしていけたらと思っております。



● お誕生 おめでとうございます。 ●

古澤 和也君に

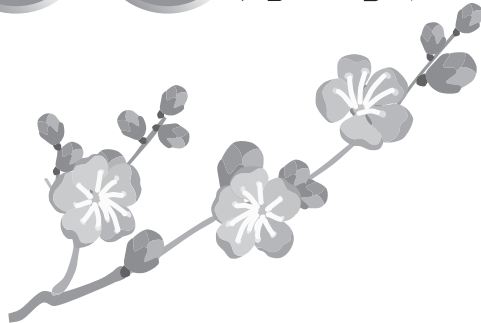
長女 柚凧(ゆな)ちゃんが生まれました。

令和 3 年11月 9 日

1

2

月の予定



### 1 月度例会(新年互礼会)

令和 4 年 1 月22日 (土)  
四鳥

### 2 月度例会(つどい事業)

令和 4 年 2 月13日 (日)  
中川ふれあいセンター